

施策評価シート (平成30年度の振り返り、総括)

作成日 平成31年 04月 16日

施策 No.	5	施策名	公共交通ネットワークの整備
主管課名	総合政策課	電話番号	0285-83-8058
関係課名	市民生活課、商工観光課、社会福祉課、いきいき高齢課、建設課、学校教育課		

施策の対象	1) 市民及び市内の公共交通機関の利用者 2) 公共交通事業者(鉄道・バス)								
対象指標名	単位	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度見込
人口	人	81,511	80,929	80,698	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324
事業者数	社	3	3	3	3	3	3	2	2

施策の意図	<p>1) 市民及び市内の公共交通機関利用者のニーズに対応し、便利で安心・迅速な移動ができるようにする。</p> <p>2) 公共交通事業者の安定した経営を支援する。</p>
-------	---

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民意向調査の「公共交通の利用しやすさ」を使用する。</li> <li>いちごタクシーとコットベリー号(3月4日からは、いちごバス)の1日当たりの利用者数は、1年間の利用者総数を営業日数で除して算出する。</li> <li>真岡鐵道利用者数は、真岡鐵道決算資料により把握する。(SL乗車数は除く。)</li> <li>真岡駅の乗降者数は、乗る人と降りる人の1日あたりの合計人数に365日をかけて算出する。1日あたりの人数は、真岡鐵道の資料により把握する。</li> <li>バスの利用者数は、10月1日から翌年の9月30日までの、市内5路線の1年間の利用者で、バス会社の資料により把握する。</li> </ul>
----------------------------	---

成果指標名	単位	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度基本計画目標値
公共交通の利用しやすさ	%	19.5	20.8	33.8	32.7	33.2	32.9	34.6	35.0
いちごタクシー1日当たりの利用者数	人	72.1	82.8	75.5	73.9	73.2	73.7	67.3	75.0
コットベリー号(いちごバス)1日当たりの利用者数	人	29.4	41.6	49.9	54.8	58.3	62.4	63.9	65.0
真岡鐵道利用者数	人	1,023,738	1,028,861	992,614	991,669	962,574	946,528	936,970	-
真岡駅の乗降者数	人	381,790	379,600	326,675	368,285	343,465	342,370	338,720	-
バスの利用者数	人	502,724	564,135	521,705	526,870	521,236	595,707	547,513	-

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	<p>市民は公共交通の役割を理解し、積極的に利用する。</p> <p>行政は市民や利用者のニーズを的確に把握し、地球環境問題や急速に進行する高齢社会に対応した総合的な公共交通ネットワークの整備に努める。</p>
-------------------------	---

30年度の  
評価結果

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

いちごタクシー1日当たりの利用者数は、平成28年度は73.2人、平成29年度は73.7人、平成30年度は67.3人で、前年度を下回った。

コットベリー号（3月4日からはいちごバス）1日当たりの利用者数は、平成28年度は58.3人、平成29年度は62.4人、平成30年度は63.9人で、年々増加傾向にある。

真岡鐵道の利用者数は、平成28年度は962,574人、平成29年度は946,528人、平成30年度は936,970人で、通学定期利用者の減少等により、年々減少している。

真岡駅の乗降者数は、平成28年度は343,465人、平成29年度は342,370人、平成30年度は338,720人で、年々減少している。

バスの利用者数は、平成28年度は521,236人、平成29年度は595,707人、平成30年度は547,513人で、年によってばらつきが見られる。

(2) 近隣他市との比較（地域公共交通の取組状況、県内14市、平成31.3.31現在）

・コミュニティバス：12市（未実施：下野、さくら）

・デマンド型交通：9市（未実施：足利、佐野、大田原、矢板、那須塩原）

(3) 住民期待水準との比較

市民意向調査では、公共交通（バス・鉄道・いちごタクシー・コットベリー号・いちごバス）の利用しやすさが良い、どちらかと言えば良いと回答した割合は、前年より1.6%増の34.6%となった。公共交通を利用しない理由としては、自家用車を利用していることや、家族などが車で送迎してくれることなどをあげている。

また、今後力を入れて欲しい施策として、「公共交通ネットワークの整備」は27.3%（前年23.4%）で、全体で上から4番目となっており、期待水準は高い。

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・平成23年11月から運行を開始したいちごタクシーは、平成30年度の1日当たりの利用者数は目標75人に対し、67.3人だった。（平成30年度末登録者数：9,499人）

・平成24年10月から運行を開始した中心市街地を循環するコミュニティバス「コットベリー号」は、右回り、左回りコースを1日各8便運行していたが、平成31年3月4日の新芳賀赤十字病院の開院にあわせて、運行コースの見直し、26人の小型バスの導入をし、いちごバスとして、運行を開始した。また、真岡鐵道との連携を図るため、北真岡駅の改修を行った。

・真岡鐵道については、安全・安心輸送の確立と利用者の快適性及び利便性の向上を図るため、第二期真岡鐵道経営計画（平成28年度から30年度までの3年間）に基づき、栃木・茨城両県及び沿線市町とともに支援しており、平成30年度は、木まくら木1,554本の更新と軌道道床整備、車両の全般検査及び重要部検査などを実施した。

・真岡線S L運行協議会においては、沿線市町の観光協会、JR東日本、旅行会社等と連携し、イベント列車の運行や各種事業を実施した。

・バスについては6路線中3つの赤字路線に対して、県・関係自治体とともに助成し路線の存続を図った。平成30年度補助金額：4,222千円

赤字路線名：真岡～橋場～宇都宮線、真岡～芳賀日赤・石法寺～宇都宮線  
真岡～ベルモール・石法寺～宇都宮線

・いちごタクシーについては、利用促進と利便性の向上を図るため、平成29年2月から回数券を発行した。

・高齢者の交通事故防止と公共交通の利用促進を図るため、65歳以上の運転免許証自主返納者に対し、平成28年度からいちごタクシーとコットベリー号の共通無料乗車券（1年間）の交付を開始した。また、平成29年度から、免許返納の高齢者（福祉タクシー利用券の交付を受けていない方）に、月2枚のタクシー利用券の交付を開始した。

<p>30年度の 評価結果</p>	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いちごタクシーについては、引き続き、回数券の発行により利用促進と利便性の向上を図る。</li> <li>・ 平成31年度から、65歳以上の運転免許証自主返納者に対し、いちごタクシーといちごバスの無期限の共通無料乗車券（現行1年間）を交付するようにする。</li> <li>・ 真岡鐵道、民間路線バス、いちごタクシー、いちごバスの乗継等の連携を強化する。</li> <li>・ 真岡鐵道利用者の増加、交流人口の増加、地域の活性化を図るため、「S Lの走るまち拠点施設」との連携を推進する。</li> <li>・ 真岡鐵道については、利便性の向上と利用促進を図る。</li> <li>・ バス路線については、生活路線として維持確保し、地域住民の利便を確保する。</li> </ul> <p>【増補版に関連する事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域連携による移動手段・公共交通ネットワークの確保        宇都宮駅東口と芳賀・高根沢工業団地を結ぶL R T（次世代型路面電車システム）の導入を見据え、広域連携による移動手段の確保と市内公共交通の充実について、調査・研究する。</li> </ul>
<p>補足事項</p>	